短歌

【小学1年生・2年生】

特　選　まつぼっくりみずにつけるとしぼんじゃう
　　まほうみたいだやってみたいな

金城小学校1年　尾本　絢音

（評）まつぼっくりを水につけるとしぼむことを先生からおそわったのか不明ですが、新しいことにちょうせんし、感じたことを確かめていくことは大切なことです。あらたな考えが、ひろがっていくことと思います。

（彦根文芸協会　西山　安子）

準特選　うんどうかいドクンドクンとしんぞうが
　　ばくはつしそうだよーいどん

城東小学校1年　横山　琉

（評）自分が力いっぱいがんばろうとすると、しんぞうがドクンドクンとばくはつしそうになるたいけんは、しんけんにがんばろうとしているからです。そのたいけんを思いのままかけました。思いをかけるということは、とても良いことで大切なことです。

（彦根文芸協会　西山　安子）

佳　作　キャンプでごはんつくったあつあつだ
　　でもねぶくろはちょっとさむかった

城東小学校1年　屋敷　百音

入　選　よるの空きれいなほし空ひかってる
　　つきにうさぎがうつっていたよ

高宮小学校2年　グエンタムレナ

【小学3年生・4年生】

特　選　**はじめてのぞうきん作りがんばった**
そうじの時間待ち遠しいよ

城南小学校4年　前田　茉帆侶

（評）ぞうきん作りを一生けんめいがんばったので、早く使いたくてしょうがなかった。それゆえ、そうじの時間が待ち遠しかった。ぞうきんに込めた思いが、早く使いたいという気持ちにつながっていて、とてもよい作品です。

（彦根文芸協会　西山　安子）

準特選　**おおあめだしずくにぬれていつもより**
私のランドセルきれいにみえる

城東小学校3年　屋敷　明音

（評）大雨で自分のランドセルがぬれて、ふつうは悲しくなるのに、雨で光ってか？きれいに見えたので、雨にぬれたことを前向きにとらえていて、心打たれました。芸術的に見る力があります。

（彦根文芸協会　西山　安子）

佳　作　**しがみつくせみのぬけがら葉のうらに**
ぎゅっとにぎってもうはなさない

稲枝東小学校4年　大西　詩楽

佳　作　**キンモクセイたいいくかんまえいいにおい**
げこうするときうれしくなるよ

亀山小学校3年　若林　千晴

入　選　**ソーラン節本気で団結声合わせ**
青空の下ひびけどっこいしょ

城東小学校4年　片瀬　蒼祐

入　選　**あきのむしきこえるこえがうつくしい**
なんかきくとこころがおちつく

城北小学校4年　森谷　咲天

【小学5年生・6年生】

特　選　**バトンパス最後のリレーに思い込め**
俺の出番だラストの走者

鳥居本小学校6年　川部　穂岳

（評）みんなでつなげるバトンパス、小学校最後の運動会、最後のリレー、いろいろな思いを胸に作者の意気込みが感じられます。下の句の流れも良く、すっきりとまとまっています。中学校でも頑張ってください。

（彦根文芸協会　森　典子）

特　選　**運動会最後のダンス旗使い**
みんなと合わせる音も心も

金城小学校6年　森　一耀

（評）小学校最後の運動会。旗を持ってのダンスは揃うときれいですが、むずかしいところもあったと思います。下の句が良いです。みんなと心を一つに、思い出深い、すばらしいダンスになったことでしょう。

（彦根文芸協会　森　典子）

準特選　**バトンパスうまくいくかな次の番**
友の応援がんばれわたし

城東小学校6年　伊藤　真央

（評）リレーで次の番になり不安に思っている時、友の応援に不安も吹っ切れ、自分よ頑張れと思った作者の気持ちがよく伝わってきます。走った後の清々（すがすが）しさまで感じます。応援うれしいですね。

（彦根文芸協会　森　典子）

準特選　**東京で見た岡本のホームラン**
冷めぬ興奮収める動画

城東小学校6年　久木　柊乃丞

（評）巨人の試合で岡本のホームランを実際に球場で観た作者の興奮が目に浮かびます。一生忘れないと思います。動画は繰り返し見られ、その時のことを思い起こしてくれます。

（彦根文芸協会　森　典子）

佳作　女子相撲強い相手にいどんでく
　　なんとかとれた三位入賞
城東小学校5年　内田　奏那

佳作　運動会三位でバトン走り出し
　　悔しさ残るあと少しの差
城東小学校6年　西沢　奏人

佳作　赤とんぼ仲良くみんな飛んでいる
　　どれも似ている家族なのかな
城東小学校5年　田中　陽菜

入選　けやき道街を彩る遊歩道
　　春夏秋冬姿をかえて
城東小学校5年　中田　知里

入選　果物の目利きのプロのおばあちゃん
　　食べたら身体元気一杯
佐和山小学校6年　大前　さくら

入選　朝早くせみの鳴き声さわがしく
　　君のおかげで早起きできる
城南小学校5年　栗本　桜奈

入選　じゃんけんとあっち向いてほい負け続け
　　なぜだか研究やっと勝てたよ
城西小学校5年　小川　遥斗

入選　運動会一生懸命頑張った
　　それが伝わる大人の涙
金城小学校6年　田井中　梨玖

【中学生】

特　選

夏休みはじめてつくる昼ごはん
母に感謝を伝えてみよう

西中学校2年　宮本　竜来

（評）夏休みには楽しく、有意義な体験をしたい思いがあります。毎日食事の準備をしてくれる母に、一度昼ごはんを作って感謝の心を伝えたいと、親のご恩を「おかげさま」と感じて歌にしたのがとても良かった。これからの人生に明るい希望が感じられる歌です。

（彦根文芸協会　河分　武士）

特　選

たがやして種をまいたら収穫し
調理するのがぼくの楽しみ

鳥居本中学校1年　武田　玄徳

（評）前向きでたくましい生き方に共鳴します。自分で育てたものを収穫し調理すると美味しさも格別です。何事にも積極的に取り組む姿勢はやがて大きな収穫を得ることにもなります。若さと情熱を持って良き人生を歩んでください。

（彦根文芸協会　河分　武士）

特　選

滋賀の城ひこにゃんの住む彦根城
みんなで守る伝統の場所

西中学校2年　渡　優衣

（評）戦（いくさ）のなかった彦根城は今でも美しい姿で彦根のシンボルとしてそびえ立っています。伝統を守って、世界遺産に認定してほしい願いもあって市民の誇りでもあります。これからも大切に見守っていきたいものです。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**オフの日にカッコいい服身にまとい**
遠出するのが僕の楽しみ

鳥居本中学校1年　中辻　蓮凰

（評）今の生活は勉強やスポーツに明け暮れていますが、休日などにはカッコ良い服を着て、遠出もしてみたい気持ちはよくわかります。二度と無い青春の日を大切にして、若者らしく明るい生活を送ってください。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**校舎からあの子の姿を眺めてる**
私の気持ち早くきづいて

鳥居本中学校3年　清水　星凛奈

（評）異性に対して純真な気持ちで好感を持つことはとても自然なことです。遠くから見てあこがれたり、思い描くことは成長の証とも言えます。美しい十代、青春の思い出として大切にして、今は勉学やスポーツに励み、立派な大人になってください。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**一度でもあなたの世界に住みたいの**
眼鏡の奥で澄んでる瞳に

鳥居本中学校3年　魚住　咲月

（評）異性の視線や瞳にあこがれて美しい夢を見ることは、成長の証であり、若さの象徴です。純粋なこころを大切にして、大きく羽ばたくために、今は勉学やスポーツに力いっぱいに励んでください。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**体育祭クラスみんなで頑張った**
あの日のことは忘れられない

西中学校2年　坂本　めい

（評）みんなで力を合わせて頑張った思い出を持ち続けることは、これからの人生にとても役に立つことだと思います。世の中には醜い争いもあってなかなか思い通りにはなりませんが、体験したことは身についていつか役に立つことでしょう。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**吹奏楽観客席の人々の**
心に響けあたたかい音

西中学校2年　川竹　志波

（評）一生懸命に演奏していると音楽の楽しさがわかりますが、同時に観客席のみんなの心に響いただろうか、気にかかるところです。あたたかい音色はきっと人々のこころを解してくれたことでしょう。何事も続けることが上達の秘訣です。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選　**新人戦胸の高なるマウンドで**
秋風にのせ渾身の一球

河瀬中学校1年　堀田　悠介

（評）初めての試合に臨む一瞬を捉えたところが素晴らしい。味わった人にしかわからない「胸の高鳴り」や、「渾身の一球」に短歌の良さがよく出ていて、読む人の心に伝わるものがあります。

（彦根文芸協会　河分　武士）

佳作　甲子園スタンド沸かせるファインプレー
　　努力と涙の結晶だ
西中学校2年　中川　楓雅

佳作　スポフェスでクラスのみんなでリレーをし
　　みんなの声援走者にとどけ
西中学校2年　加藤　歩花

佳作　学校の部活や行事や登下校
　　友との思い出大切な時間
西中学校2年　松居　悠馬

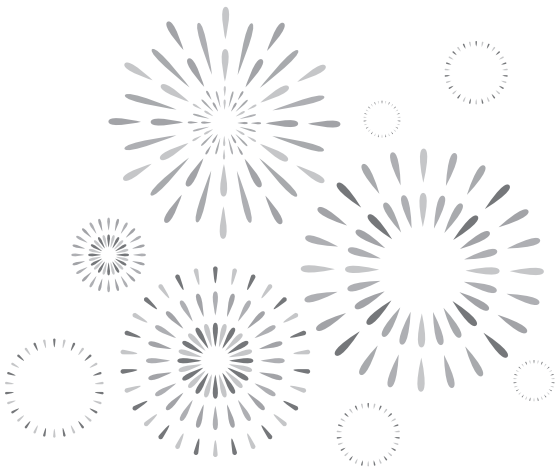
佳作　秋がきた風が冷たく気持ち良い
　　このまま秋が続くといいな
西中学校2年　服部　紗希

佳作　暑い夏全力尽くす体育祭
　　勝ち負けついてもみんな楽しい
西中学校2年　徳村　八雲

佳作　楽器の音が運動場に響いてる
　　頑張る人の背中を押したい
西中学校2年　西村　碧海

佳作　空に咲く大きな花火照らし出す
　　手をつなぎたい君の横顔
西中学校2年　大谷　名月

佳作　毎日を積み重ねること大事だよ
　　諦めないよう気持ちが大事
西中学校2年　大谷　真広



入選　冬は雪かまくらづくり友達と
　　いっぱい遊び思い出づくり
西中学校2年　悦　崇晴

入選　秋の空もみじのように鮮やかな
　　赤い夕焼け目に焼き付ける
西中学校2年　石丸　美咲

入選　冬の朝布団の中に猫が来て
　　暖かくってかわいらしいな
西中学校2年　平野　光桜

入選　食の秋旬の食べ物おいしいな
　　家族と団らんホカホカご飯
西中学校2年　雁瀬　柚月

入選　赤黄色並ぶ木々らの衣替え
　　心地よい風やってきた秋
西中学校2年　清水　優花

入選　最終回歓声止まらぬ大チャンス
　　カキーンと一発みんなが涙
西中学校2年　藤本　陸仁

入選　筆を持ち一つのことに向き合える
　　習字というは自分の世界
西中学校2年　田部　凛

入選　緑の葉涼しくなりて赤染まり
　　夏から秋へ季節の変わり目
西中学校2年　雁瀬　紗月

入選　体育祭みんなで心を一つにし
　　みんなで獲ろう総合優勝
西中学校2年　村田　涼世

【総評】

作品は学年により増加していますが、全体的に今年は去年より減少しました。皆さんの力作を味わいたいと、ていねいに拝見いたしました。

小学生

一・二年生、三・四年生とも増加いたしました。五・六年生の応募者は昨年より大幅に減少いたしました。学校により先生や家族の皆さんのアドバイスによって影響があるのかと感じます。子どもらしい視点から、日頃の体験や学校のこと、友だち、家族のこと、自分の「見たこと」「感じたこと」「楽しかったこと」「頑張ったこと」など、良い短歌（うた）がたくさんありました。

その中で感じたことで、学校の先生や家族の方にもお願いしたいのは、

①短歌は「みじかうた」です。五七五七七のリズムが大切であり、全体で三十一文字が基準です。

②作りかけの、短い文のままで出されたと思われる作品がありました。短歌は、作りっ放しではなく、推敲（見直し）が大切です。

中学生

中学生は学校により昨年に比べて応募者は大きな増加が見られました。いままで出していた学校の姿が見えないのは、学校の先生や家族の皆さんの影響があるのかと感じます。熱心に取り組まれた学校もあり、基本に忠実で、よくまとまっている短歌（うた）があったので救われました。

季節、学校、家族のことなど視点を考えた良い歌が多くあり、今後は更に多数の皆さんの参加による良い作品を見せてほしいと期待します。

短歌を作るのに大切なこと

①短歌を作るのを「詠む」と言いますが、その前に、どんな歌が良いのか、今までに入賞となった作品、新聞や本に書いてあるような良い短歌をたくさん「読む」ようにしてください。

②歌を作る時には「何を詠（うた）うのか」先ず「テーマ」を考えましょう。

③「〇〇を見て、私はどう思う」のパターンを大切にしてください。

④五七五七七のリズムを大切に、合計の字数が基本の三十一文字になるように注意してください。（最後の七が五にならないように）

⑤多くの作品を作って、その中から「これ」と思う自信のある短歌を選んで出すようにしてください。

短歌には、昔から脈々と引き継がれて来た長い歴史があります。大人になっても続けられるようにしてください。

（彦根文芸協会　河分　武士）